

ナシ「あきづき」の収穫適期指標の利用

～果実の写真入り収穫適期指標を使った、「あきづき」の適期収穫～

加藤周平（豊田加茂農林水産事務所農業改良普及課）

【平成23年5月20日掲載】

【要約】

ナシ「あきづき」は酸味が少なく甘味が強いため、消費者から好まれる有望な品種として現在注目されている。しかし、果皮の色での収穫適期判断が難しく、出荷の際に未熟果の混入が問題となっている。

そこで、農業改良普及課では、選果場に導入されている光センサーの選果データ（果皮の赤色度及び熟度）を利用して収穫適期指標を作成した。この指標を農家に配付し、適期収穫に役立った。

1 はじめに

ナシ「あきづき」は酸味が少なく甘味が強いため、今後消費の伸びが期待される品種である。豊田市、みよし市では、収穫期が重なるナシ「豊水」や「新高」から「あきづき」へ栽培が移行している。しかし、「あきづき」は果皮の色での収穫適期判断が難しく、まだこの産地に導入されて間もない新しい品種であることから、出荷するとき未熟果の混入が問題となっている。

農業改良普及課では、平成21年、選果場に導入されている光センサーの選果データ（果皮の赤色度及び熟度）と果実の写真を利用して収穫適期指標を作成し、農家に配付した。

平成22年は前年作成した指標を改善し農家に配付することで、「あきづき」を適期に収穫できるよう支援を行った。

2 収穫適期指標の作成と配付

農業改良普及課では、平成22年「あきづき」の収穫までに、平成21年の選果データと果実の写真を用いて収穫適期指標を作成し、平成22年8月に農家へ指標を配付した。

指標にはナシの写真と、それぞれの写真に対応する赤色度及び熟度を表記した(図1)。「あきづき」は果実ていあ部（果頂部、果実の尻の窪んだ部分）の緑色の抜け具合で、収穫適期を判断する方法が知られているので、写真は果実側面及びていあ部から見たものを掲載した。

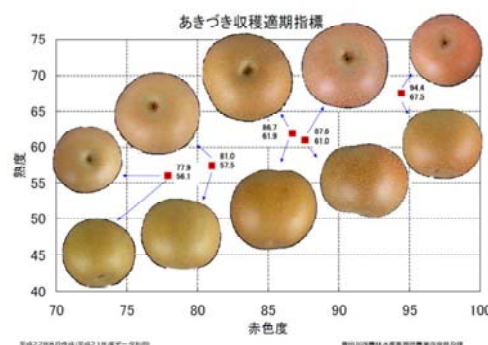


図1 ナシ「あきづき」収穫適期指標

3 収穫適期の調査

平成22年「あきづき」の収穫後、栽培農家12戸を対象とし、各農家の選果データから「あきづき」が収穫適期指標に基づいて、適期に収穫できたかを調査した。また平成21年と22年における収穫適期の果実の赤色度及び熟度について比較した。

4 結果

(1) 平成22年の選果データの結果から、対象とした「あきづき」栽培農家12戸のうち、7戸の農家が適期に収穫できたが、全体的に適期より早く収穫する傾向があった(図2)。

(2) 収穫適期の果実の赤色度及び熟度の値は、平成21年が赤色度：84.2～89.2、熟度：59.4～64.4であったのに対して、平成22年は赤色度：79.5～84.5、熟度：62.5～67.5と、年によって適熟果の赤色度及び熟度が異なっていた。

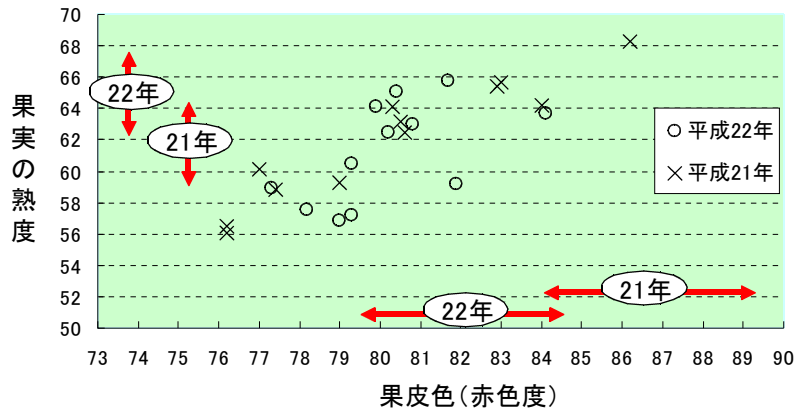


図2 ナシ「あきづき」の生産者別 熟度と果皮色 (平成22年選果データによる)

※ 矢印は適熟果の果皮色、熟度を表す。

5 まとめ

(1) 「あきづき」の収穫適期指標を農家に配付したことにより、農家は、指標の写真を参考にしながら、収穫適期の果実の赤色度と実際に自分が収穫した果実の赤色度とを見比べ、適期に収穫できているかを確認することができた。これにより、前年と比べて適期に収穫できる農家が増加した。しかし全体的にまだ適期よりも早く収穫する傾向があった。

(2) 収穫適期の果実の赤色度が年によって異なることが考えられるため、収穫適期指標の表記の仕方をさらに改善する必要がある。

(3) 農家に対して、収穫適期指標を配付し適期収穫の重要性を説明したことで、産地全体で適期収穫に対する意識が高まった。